基礎・基本の定着と活用力向上のために

平成２９年度全国学力・学習状況調査
本 県 の 結 果 と 今 後 の 対 策
【 小 学 校 】

平成２９年１１月３０日
青森県教育庁学校教育課

＊　本報告書の活用に当たって　＊

本報告書は、本調査の結果を受けて、本県の学習指導上の課題を明らかにし、県内の各学校が今後とるべき対策の参考となる事柄を示すことを主なねらいとして作成したものである。

また、本報告書の活用に当たっては、各教科・科目の結果だけでなく、質問紙調査の結果についても、自校の結果と比較しながら、今後の指導の改善に役立てていただきたい。

なお、本調査の結果の概要や正答数の分布、すべての小問の正答率等については、文部科学省から配布された『平成２９年度全国学力・学習状況調査【小学校】又は【中学校】調査結果』（ＣＤ－ＲＯＭ版）を参照していただきたい。

さらに、国立教育政策研究所のホームページに、文部科学省の報告書や調査結果を踏まえた「授業アイデア例」がアップされているので、併せて活用していただきたい。

＊　本報告書の用語や記号等について　＊

本報告書中の用語や記号等については、次のような意味で使用している。

「全国比」
:「今年度の本県の平均正答（回答）率－今年度の全国の平均正答（回答）率」の式で求めた値。本県が全国を上回っていれば「＋」、また、下回っていれば「－」で表示している。

「前年度県比」
:「今年度の本県の回答率－平成２８年度の本県の回答率」の式で求めた値。今年度が平成２８年度を上回っていれば「＋」、また、下回っていれば「－」で表示している。

「□」: 概況を示す。

「▼」: 課題を示す。

「◆」: 今後の方向性や対策・指導等を示す。

「数字」: 本県の正答率が、対比している値に対して５ポイント以上下回っていることを示す。

平成２９年度全国学力・学習状況調査
本県の結果と今後の対策【小学校】

目　　次

Ⅰ　国語Ａ「主として知識に関する問題」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
１　科目全体の結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
２　分類・区分別の結果と今後の対策　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
３　設問（小問）別の結果と今後の対策　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
４　国語Ａに関する調査と質問紙調査との相関　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５

Ⅱ　国語Ｂ「主として活用に関する問題」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
１　科目全体の結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
２　分類・区分別の結果と今後の対策　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
３　設問（小問）別の結果と今後の対策　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
４　国語Ｂに関する調査と質問紙調査との相関　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９

＜平成２８年度県学習状況調査を踏まえて（国語）＞　・・・・・・・・・・・・・・・１０

Ⅲ　算数Ａ「主として知識に関する問題」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
１　科目全体の結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
２　分類・区分別の結果と今後の対策　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
３　設問（小問）別の結果と今後の対策　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
４　算数Ａに関する調査と質問紙調査との相関　・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４

Ⅳ　算数Ｂ「主として活用に関する問題」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６
１　科目全体の結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６
２　分類・区分別の結果と今後の対策　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６
３　設問（小問）別の結果と今後の対策　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７
４　算数Ｂに関する調査と質問紙調査との相関　・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０

＜平成２８年度県学習状況調査を踏まえて（算数）＞　・・・・・・・・・・・・・・・２１

Ⅴ　質問紙調査　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２３
１　児童質問紙調査の結果と今後の対策　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２３
２　学校質問紙調査の結果と今後の対策　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８

平成２９年度全国学力・学習状況調査
本県の結果と今後の対策
【小学校】

Ⅰ　国語Ａ「主として知識に関する問題」

１　科目全体の結果

国語Ａ全体の平均正答率（%)）		
青森県	全国比	前年度全国比
７９	＋４	＋４．５

□　国語Ａ全体としては、本県は、全国をやや上回っている。

◆　引き続き、基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着に努めるため、国語の授業づくりの視点を基にし、日常の授業で次のことに留意して指導する。

授業づくりの視点

１　当該単元で育成したい国語の資質・能力を明確にするために
- 指導事項を踏まえる。
- 児童の実態を踏まえる。
- 年間指導計画に基づく指導の見通しを踏まえる。
- 育成すべき資質・能力の三つの柱を踏まえる。

２　当該単元で育成を目指す国語の資質・能力を高めるために
- 指導事項を吟味し、適切な言語活動を設定する。
- 児童事項に応じた学習活動を具体化する。
- 指導事項に示す能力を育成するための支援を明確にする。
- 身に付けた能力を繰り返し活用する指導過程を工夫する。

３　言語活動の質を高めるために
- 児童が学習の目的や必然性を自覚できるようにする。
- 児童が目的や必然性を自覚できる交流を工夫する。
- 指導のねらいに応じた語彙指導を工夫する。
- 関連する図書など読書環境を工夫する。

日常の国語の授業で大事にしたいこと

〇発達の段階に応じて、日常生活に必要とされる日記、記録、説明、報告、紹介、感想、討論などの言語活動を行う場面を意図的に設定する。

〇話合い活動等の言語活動の場においては、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりする活動をさせる。

〇体験的に理解させたり、繰り返し学習をさせたりするなど、発達の段階に応じて読み・書きなどの基礎的・基本的な能力を確実に身に付けさせる。

〇国語科の授業に学校図書館等を計画的に活用する読書活動を取り入れ、目的や意図に応じた効果的な読み方を継続的に指導する。

２　分類・区分別の結果と今後の対策

分　　類	区　　分	平均正答率（%）		
		青森県	全国比	前年度全国比
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	７０．４	＋１．２	＋１．８
	書くこと	６２．６	＋２．０	＋０．４
	読むこと	７２．０	＋１．８	＋０．７
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	８２．５	＋４．５	＋６．４
評価の観点	話す・聞く能力	７０．４	＋１．２	＋１．８
	書く能力	６２．６	＋２．０	＋０．４
	読む能力	７２．０	＋１．８	＋０．７
	言語についての知識・理解・技能	８２．５	＋４．５	＋６．４

□　学習指導要領の領域別では、「話すこと・聞くこと」・「読むこと」では、全国と同程度であり、「書くこと」・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、全国をやや上回っている。

□　評価の観点別では、「話す・聞く能力」・「読む能力」では、全国と同程度であり、「書く能力」・「言語についての知識・理解・技能」では、全国をやや上回っている。

▼　引き続き、基礎的・基本的な知識や技能を児童に確実に定着させるよう、指導をしていく必要がある。

▼　学習指導要領の領域別では「話すこと・聞くこと」・「読むこと」、評価の観点別では「話す・聞く能力」・「読む能力」を、今後さらに伸ばす必要がある。

◆　「話す・聞く能力」を伸ばすには、例えば次のような指導の充実を図る。

「話す・聞く能力」を伸ばすための指導の充実

〇目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように話す指導の充実

［話の構成や内容を工夫する］

・自分の立場を明確に説明したり、事実と感想、意見とを区別したり、結論付けを明確にしたりすることなどについて指導することが大切である。

［場に応じた適切な言葉遣いで話すことができるようにする］

・声量や速度、抑揚や間の取り方、改まった言葉や丁寧な言葉、敬体と常体の使い分けなど､その場に応じた最も適切な表現の仕方について指導することが大切である。

［話し言葉の特質を踏まえる］

・話し言葉には、発せられた途端に消えていくという特質や、聞き手の反応やその場の状況などの影響を強く受けながら理解されたり、表現されたりするという特質がある。

・話し言葉の特質を踏まえて、自分の考えが伝わるように話すことができていたかを振り返ることができるよう指導することが大切である。

・相手の反応に応じて、思考を働かせながら話すことができるよう指導することが大切である。

◆　「読む能力」を伸ばすには、例えば次のような指導の充実を図る。

「読む能力」を伸ばすための指導の充実

〇物語を読んで感想を伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりする指導の充実

・自分の考えが、どの叙述に基づいているのか、自分の経験などとどう結び付いているのかを明らかにしながら伝え合い、一人一人の感じ方に違いがあることに気付くことができるように指導することが大切である。

・互いの考えの共通点や相違点を明らかにしながら、自分の考えを広げたり深めたりすることができるよう指導することが大切である。

〇物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にし、自分の考えをまとめる指導の充実

・一つの場面の叙述だけを対象とするにとどまらず、複数の場面の叙述を相互に関連付けながら読むことが重要である。

・高学年においては、場面の展開に沿って読みながら、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写などを捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめることができるように指導することが大切である。

（『平成２９年度全国学力・学習状況調査報告書【小学校国語】』Ｐ９）

３　設問（小問）別の結果と今後の対策

（１）正答率の低い問題（正答率が概ね６５％以下の小問。）

問題番号	問　題　の　概　要	平均正答率（%）	
		青森県	全国比
２二	手紙の後付けに必要な、日付、署名、宛て名のそれぞれの位置について、適切なものを選択する。	４５．４	＋３．９
４二	グループの話合いを通して見つけた俳句のよさとして適切なものを選択する。	５８．１	＋１．１
７（１）	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く。（参加たいしょう）	５３．６	＋１１．６

①概況及び課題

□　各小問ともに、全国と同程度か、やや上回っている。しかし、上回っている小問数は、約４割～５割にとどまっている。

▼　小問２二は、正答率が５割に満たなかった。手紙全体の構成や、後付けにおける署名と宛て名の位置関係といった手紙の基本的な形式を理解させる必要がある。

▼　小問４二については、俳句の情景や表現の特徴を捉えて読むことが必要である。

▼　小問７（１）については、正答率が全国比を大きく上回っているが、５割をやや上回る程度であり、課題が見られる。「対象」という言葉の意味を捉え、文や文章の中で正しく使うことが必要である。

②今後の対策・指導

◆　手紙の構成や内容を吟味したり、形式を整えたりすることが、相手に対する感謝の思いや敬意を表すことにつながるということを指導する。また、手紙を書く活動を、国語科のみならず、国語科との関連を図りながら各教科等で意図的、計画的に設定することが大切である。

「手紙を書く活動」の指導の充実

〇実用的な文章としての手紙を書く

・実生活において、依頼状や案内状、礼状などの実用的な文章としての手紙を、目的や意図を明確にして、書く事柄を選び、書きたいことの中心が伝わるように詳しく書いたり簡単に書いたりすることができるよう指導することが大切である。

・書いた手紙を互いに読み合い、伝えたいことが適切に伝わるかどうかを意識し、相手や場面に応じて、丁寧語や尊敬語、謙譲語を適切に用いることができるよう、児童の発達段階に合わせて、繰り返し指導することが大切である。

〇基本的な構成に基づいて、手紙を書く

・手紙を書く際は、「前文」「本文」「末文」「後付け」といった手紙全体の構成や、後付けにおける署名と宛て名の位置関係といった手紙の基本的な形式などについて指導する必要がある。その際、例えば、縦書きの場合、署名と宛て名の位置関係を押さえることにとどまらず、「宛て名を最終行の上の位置に書くことで相手への敬意を示すことにつながる」など、手紙の形式がもつ意味について指導することが大切である。

・書写に関する事項との関連を図り、ボールペンや筆ペンなどの様々な筆記用具や、便せんや封筒などの用材の特徴を生かし、丁寧に手紙を書く学習活動を設定することも考えられる。

・実生活においては、手紙の他にファクシミリや電子メールを使用することも考えられる。児童の実態に応じ、ファクシミリや電子メールの書き方を示し、それを基に必要な情報を収集するというような学習活動を設定することが考えられる。

（『言語活動事例集【小学校版】』Ｐ２１～Ｐ２２参照）
（「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（小学校編）」Ｐ27～Ｐ28参照）

◆　俳句の指導に当たっては、情景や作者の思いを想像したり、想像したことを交流したりすることが大切である。

俳句に親しむための指導の充実

〇季節感や俳句に込めた思い、七音五音を中心としたリズムから、国語の美しい響きを感じ取りながら音読したり暗唱したりし、文語の調子に親しむことができるよう指導することが大切である。

〇児童が俳句を繰り返し音読しながら言葉の美しい響きや俳句のもつリズムに着目して俳句に表れている情景や作者の思いなどについて感じることを交流することで、自分が想像したことを広げたり深めたりすることが大切である。

〇児童の発達の段階に応じた教材を選定するとともに、各地域にゆかりのある歌人や俳人、地域の景色を詠んだ歌や句などを教材として開発することなども有効である。

〇高学年においては、それまでの学習経験を踏まえて、短歌や俳句をつくるという学習を行うことが考えられる。特に俳句をつくる際には、歳時記や季寄せを参考にし、使ってみたい季語を集めたり、様々な俳句を音読したりし、題材を探すことも考えられる。

〇高学年における古典の指導に当たっては、中学校第１学年でどのような古典の学習をするのかを踏まえることが重要である。

〇小学校段階では、指導のねらいに応じて、複数の俳句を比べ、それぞれの俳句の特徴に気付くことができるようにするなど、言葉のもつ豊かさや多様性を感じることがで

きるよう指導することが大切である。

(『平成２９年度全国学力・学習状況調査報告書【小学校国語】』Ｐ３７)
(『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（小学校編)』Ｐ２３)

◆　漢字の指導に当たっては、学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読んだり書いたりする繰り返しの練習のみならず、書いた文章を読み直し、正しく使っているか振り返る習慣を身に付けさせることが大切である。その際、国語辞典や漢字辞典を日常的に利用し使い方を調べる習慣を身に付け、語彙を広げながら正しく適切に漢字を表記できるよう指導することが重要である。

漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中で適切に漢字を使う指導の充実

・各教科等や日常生活で使用する文や文章の中で適切に漢字を使うことができるようにするためには、漢字を字形に注意しながら繰り返し書いて練習することのみならず、漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中で正しく使うことができるよう指導することが大切である。
・同音異義語に注意するなど、漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くようにすることが重要である。

４　国語Ａに関する調査と質問紙調査との相関

（１）児童質問紙調査との相関

□　質問番号（５７）「５年生までに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」

〈本県の状況〉

選択肢		平均正答率(%)	差	全国(国公私立)
1	「当てはまる」	８０．０	15.4ポイント	７８．０
2	「どちらかといえば、当てはまる」	７８．１		16.8ポイント
3	「どちらかといえば、当てはまらない」	７３．１		
4	「当てはまらない」	６４．６		６１．２

◆　話し合う活動をよく行っていたとする児童の平均正答率は８割であることから、国語の基礎的な問題についての知識・理解の定着につながるよう、主体的に授業に参加する機会の充実を図る。

□　質問番号（２４）「家の人と学校での出来事について話をしますか」

〈本県の状況〉

選択肢		平均正答率(%)	差	全国(国公私立)
1	している	８１．９	15.0ポイント	７７．８
2	どちらかといえばしている	７８．９		15.1ポイント
3	あまりしていない	７４．５		
4	全くしていない	６６．９		６２．７

◆　家庭が児童の学校生活の様子を知ることで、認め励ますことのきっかけとなり、児童の

自己肯定感や成就感の高まりにつなげていくことが効果的であるため、日記や通信等で学校の様子を家庭の理解を得るような手立てを講ずることが効果的である。

（２）　学校質問紙調査との相関

□　**質問番号（１９）「調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか」**

〈本県の状況〉

選択肢		平均正答率(%)	差	全国(国公私立)
1	「そのとおりだと思う」	７８．５	4.8ポイント	７７．８
2	「どちらかといえば、そう思う」	７８．４		10.2ポイント
3	「どちらかといえば、そう思わない」	７６．９		
4	「そう思わない」	７３．７		６７．６

◆　自らの考えを工夫して発表するような指導を行っている学校は、そうではない学校より正答率が高い傾向にある。発言の機会を多くすることに加え、発表する際には、資料や文章、組立て等を工夫して行うよう指導する。

Ⅱ　国語Ｂ「主として活用に関する問題」

１　科目全体の結果

国語Ｂ全体の平均正答率（%）		
青森県	全国比	前年度全国比
５９	＋１	＋２．４

□　国語Ｂ全体として、本県は、全国と同程度である。

◆　基礎的・基本的な知識や技能を活用して課題を追求する力の更なる向上に努めるため、今後も、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の各領域において、次のような授業を行う。

知識や技能を活用して課題を追究する国語の能力を伸ばすために

〇問題解決的な学習過程で、授業を展開する。
〇授業の導入では、学習意欲を喚起する問題（課題）を設定する。
〇児童が自力（一人）で問題（課題）解決に取り組む時間を確保する。
〇児童同士が、互いの考えを発表し合う時間を確保する。
〇児童が、自分の考えや学習のまとめを自力で書くように指導する。
〇単元の中に計画的に言語活動を位置付ける。

２　分類・区分別の結果と今後の対策

分　　類	区　　分	平均正答率（%）		
		青森県	全国比	前年度全国比
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	６６．８	＋１．９	＋２．７
	書くこと	５６．３	＋２．９	＋２．６
	読むこと	５１．６	＋２．４	＋３．７
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	４６．２	＋４．５	＋４．６
	話す・聞く能力	６６．８	＋１．９	＋２．７
	書く能力	５６．３	＋２．９	＋２．６
	読む能力	５１．６	＋２．４	＋３．７
	言語についての知識・理解・技能			

□　学習指導要領の領域別では、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」において、全国と同程度かやや上回っている。

□　評価の観点別では、「国語への関心・意欲・態度」、「話す・聞く能力」、「書く能力」及び「読む能力」において、全国　と同程度かやや上回っている。

▼　領域別では「話すこと・聞くこと」、観点別では「話す・聞く能力」の平均正答率が他の領域、観点と比較すると低いことから、今後、これを伸ばす必要がある。

◆　「話す・聞く能力」を伸ばすためには、目的や意図に応じて話合いの機会を設け、各教科等との関連を図りながら、具体的に指導する。その中で、話し手の発言をよく聞き、中心を捉え、分類・整理することなどを指導していくよう、以下のような指導を行う。

「話す・聞く能力」を伸ばすために～話し合うことを通しての指導事例～

〇学校生活の中で、計画的に話合いの機会を設け、話し合うことに慣れさせる。
　・朝や帰りの会、学級活動の話合い、各教科のグループ活動、自主的な話合い等の場面で話合いの機会を設けることが考えられる。
　・初期の段階では、必要に応じて話型を活用するなど、具体的に指導する。
〇相手や場に応じ、適切な内容や言葉遣いなどで話すようにさせる。
〇発言内容をよく聞き、考えの中心となることを捉えさせる。
　・話の要点を聞き取り、大事なことを短い言葉でメモをとる習慣を身に付けさせる。
　・発言内容を自分の言葉に置き換えて理解させるなどの工夫をする。
　・発言内容が分からない時には、聞き返しや質問をして確認するようにさせる。
〇複数の発言内容を聞き分け、考えの立場や見解などを分類・整理させ、話合いの観点を明らかにさせていく。
　・キーワード、共通点、相違点等に着目させる。

（『平成２６年度全国学力・学習状況調査報告書【小学校国語】』Ｐ５１、『平成２６年度全国学力・状況調査の結果を踏まえた授業アイディア例【小学校国語】』Ｐ９～１０参照）

３　設問（小問）別の結果と今後の対策

（１）正答率の低い問題（正答率が概ね６０％以下の小問。）

問題番号	問　題　の　概　要	平均正答率（%）	
		青森県	全国との差
１三	折り紙のみりょくについて、スピーチメモとグループの話合いで出された意見を基に書く。	５１．９	＋３．５
２三	「水やりに協力してくれる人をぼ集します」の[イ]に入る内容を、中学生からの[アドバイス]を基に書く。	３７．２	＋４．２
３二	「きつねの写真」を読んだあとの話合いにおけるア・イの発言の意図として、適切なものをそれぞれ選択する。	２７．９	－０．１
３三	「きつねの写真」から取り上げた言葉や文を基に、松ぞうじいさんととび吉がきつねだと考えたわけをまとめて書く。	４９．７	＋６．０

①概況及び課題

□　上記４問は、全国平均正答率が２０％台から５０％台と低い問題であり、うち３問は記述式の問題である。

▼　１三では、目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話すことに課題がある。

▼　２三では、目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書くことに課題がある。

▼　３二では、自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉えることに課題がある。

▼　３三では、物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめることに課題がある。

②今後の対策・指導

◆　話の構成や内容を工夫するために、自分の立場を明確に説明したり、事実と感想、意見とを区別したり、結論付けを明確にしたりすることなどについて指導する。

◆　場に応じた適切な言葉で話すために、声量や速度、抑揚や間の取り方、改まった言葉や丁寧な言葉、敬体と常体との使い分けなど、その場に応じた最も適切な表現の仕方について指導する。

◆　取材した事柄を整理し、情報と情報との共通点や相違点に着目してまとめたり、見出しを付けたりして、理由を取り上げて簡単に書くことができるようにする。

◆　目的や意図に応じて、簡単に書く場合と、詳しく書く場合とを適切に判断することができるようにする。具体的には、新聞やリーフレットなどの文章の種類や特徴を踏まえ、内容や分量などを考えながら書くというような学習活動を工夫する。

◆　自分にとって心に響いた叙述を、登場人物の行動、会話、心情、相互関係、場面についての描写などに着目して見付けることができるよう指導する。

◆　一つの場面の叙述だけを対象とするにとどまらず、複数の叙述を相互に関係付けながら読むことができるよう指導する。

◆　自分の考えが、どの叙述に基づいているのかを明らかにしながら交流することで、自分の考えが明確になることを児童が実感できるよう指導する。

叙述を基に自分の考えをまとめる力を付けるには

〇物語を読んで感想を伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりする。

・交流の場を設定し、各自の考えがどのように共通していたり相違していたりするのかなどを明らかにする。また、一人一人が目的をもって交流することにより、自分の考えを広めたり深めたりすることにつながっていくということを児童自身が実感できるよう、指導することが大切である。

〇物語を読み、叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる。

・日常の読書においては、今までの読書経験を踏まえ、叙述と自分の体験や他者の解釈を結び付けたり、他の作品と比べたりして読むことで、より豊かに想像することができると考えられる。

・場面の展開に沿って､登場人物の言動や心情の変化を捉えて読むことが必要となる。また、高学年では、象徴性や暗示性の高い表現や内容、メッセージや題材を強く感じさせる表現、感動やユーモア、安らぎなどを生み出す優れた叙述に着目して読むことが大切である。

・一つの場面の叙述だけを対象とするにとどまらず、複数の場面の叙述を相互に関係付けながら読むことができるようにすることが大切である。

・叙述を基にしてどう考えたのかを交流することで、それぞれの考えが自分の経験や読書経験に基づいていたり、他の叙述と関係付けられていたりすることに気付くよう指導することが大切である。

（『平成２９年度全国学力・学習状況調査報告書【小学校国語】』Ｐ７８、Ｐ８１）

４　国語Ｂに関する調査と質問紙調査との相関

（１）　児童質問紙調査との相関

□　質問番号（８８）「今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたか」

〈本県の状況〉

選択肢		平均正答率(%)	差	全国(国公私立)
1	「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」	６３．２	31.6ポイント	６２．３
2	「書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあった」	５０．６		31.7ポイント
3	「書く問題は全く解答しなかった」	３１．６		３０．６

◆　国語科で培った言語能力が、他教科の言語活動等に効果的に働き、国語科のみならず他教科における記述式の正答率が高まるため、発達段階に応じた段階的な指導を行う。

（２）　学校質問紙調査との相関

□　質問番号（１９）「調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか。」

〈本県の状況〉

選択肢		平均正答率(%)	差	全国(国公私立)
1	「そのとおりだと思う」	６６．２	9.4ポイント	６１．６
2	「どちらかといえば、そう思う」	６０．９		12.3ポイント
3	「どちらかといえば、そう思わない」	５７．４		
4	「そう思わない」	５６．８		４９．３

◆　学校や学級において、調べたことを発表する際に、伝える相手を意識し、適当な資料を用いたり、組み立てメモ等を利用するなどし、伝える内容を工夫することで、自らの考えをうまく伝える力を付けることができる。

＜平成２８年度県学習状況調査を踏まえて（国語）＞

【話すこと・聞くこと】

平成２８年度県学習状況調査実施報告書において、「相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立てて話したり、丁寧な言葉を用いる等、適切な言葉遣いで話したりする力」の向上が挙げられた。今後の指導として、同学年や異学年、全校児童や学校外の人々などを対象とした、多様な場や相手に対して話すことができるような機会を設定し、分かりやすく伝えるための話し方について指導することが大切であるとした。

平成２９年度全国学力・学習状況調査国語Ａの「話すこと・聞くこと」は、全国比＋１．２ポイントと同程度であった。「話すこと・聞くこと」において、話し方・聞き方の具体的なポイント等について、今後も引き続き段階的、系統的な指導を行うとともに、他領域とも関連性をもたせながらの指導が必要である。

【書くこと】

平成２８年度県学習状況調査実施報告書では、「複数の資料を読み取り、それらを関連付け、条件に合わせて書く力」の向上が挙げられ、必要な資料の収集、読み取り、関連付け、全体を通して考えたことを新聞やポスター、文章等で表現する等の力を育成することが大切であるとした。

平成２８年度全国・学力・学習状況調査では、Ａ及びＢ問題の「書くこと」の領域の８問中４問が全国平均を下回っていた。平成２９年度は、７問中１問が全国平均を０．１ポイント下回ったが、他６問は上回っている状況である。特に記述式の問題では、３問中３問とも全国平均を３．５から６．０ポイント上回った。

「書くこと」において、今後も引き続き明確な目的意識をもたせた取材、記述をする指導をしていくことや、身近なことから必要感のある課題を設定し、課題から条件を導き出す授業を行うようにしたい。

【読むこと】

平成２８年度県学習状況調査実施報告書では、「目的に応じて、中心となる語や文を捉えて段落相互の関係や事実と意見との関係を考えて文章を読む力」の向上が挙げられた。今後の指

導として、筆者がどのような事実を原因や理由として挙げ、それについてどのような考えや意見を述べようとしているのかを捉えさせることが大切であるとした。

また、文学的文章においては、複数の叙述を基に登場人物の人物像を捉える力の向上が挙げられ、登場人物の行動や会話などの叙述を一つの場面からだけではなく、作品全体から複数取り上げ、それらをもとに考える学習が求められるとした。

平成２９年度全国学力・学習状況調査では、国語Ａ・Ｂの「読むこと」は６問出題されている。６問中１問が０．１ポイント下回ったが、他５問は同程度から上回る結果となった。

登場人物の心情や性格、考え方などを多面的に捉えるために、今後も学習のねらいにあった学習形態の工夫や、指導計画の工夫、作品全体から関連付けた読みの指導を行うことにより、読むことについて着実に定着していくものと思われる。

Ⅲ　算数Ａ「主として知識に関する問題」

１　科目全体の結果

算数Ａ全体の平均正答率（%）		
青森県	全国比	前年度全国比
８０	＋１	＋２．８

□　算数Ａ全体としては、本県は、全国と同程度である。

◆　引き続き、基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着に努める。

基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着のために

〇身に付けた知識や技能を使って解決する場面を繰り返し設定する。

〇解決の過程や結果を振り返る場面を設定する。

２　分類・区分別の結果と今後の対策

分　　類	区　　分	平均正答率（%）		
		青森県	全国比	前年度全国比
学習指導要領の領域	数と計算	８１．９	＋１．３	＋２．７
	量と測定	６７．７	－１．１	＋２．８
	図形	８４．９	＋３．８	＋５．７
	数量関係	８１．５	＋１．９	＋１．５
評価の観点	数量や図形についての技能	８０．０	＋２．３	＋２．７
	数量や図形についての知識・理解	８０．４	＋０．７	＋２．９

□　小問１５問中７問において、正答率が８割を越えている。

□　学習指導要領の領域別では、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」は全国と同程度かやや上回っている。

□　前年度との比較では、学習指導要領の領域別で「数量関係」が前年度を上回っている。

□　評価の観点別では、２観点すべてにおいて、全国と同程度かやや上回っている。

▼　学習指導要領の領域別「量と測定」の平均正答率が６７．７％と最も低いことから、その改善を図る必要がある。

◆　「量と測定」領域の一層の定着を図るために、次のような指導を行う。

「量と測定」領域の一層の定着を図るために

〇量の比較や測定においては、具体物についての作業的・体験的な活動を積極的に取り入れ、量の大きさについての感覚を豊かにするような指導を行う。

〇量の大きさの比較について、具体物を使った作業的・体験的な活動を行った場合、直接比較、間接比較、任意単位による比較、普遍単位による測定についてそれぞれのよさを理解し、新たに学習する量の比較や測定に活用できる指導を行う。

〇面積などの測定において、図形を構成する活動（二つの合同な三角形を組み合わせる、平行四辺形を対角線で二つの合同な三角形にするなど）を通して、図形の面積

の関係を理解できる指導を行う。
○異なる種類の量の比較や測定においても、既習の量の比較や測定の方法と共通する方法が用いられていることを見い出し、統合的に捉えることができる指導を行う。
○量感を豊かにすることにおいては、測定する前に量の見当付けを行う、測定する対象に応じて適切な単位、計器を選択する、基本的な単位の量（例：１ｍ、１Ｌなど）の大きさについておよその大きさを示す、身近な具体物を基にして量を測定するなどの活動ができる指導を行う。

３　設問（小問）別の結果と今後の対策

（１）全国平均との比較（全国の平均正答率よりも概ね１ポイント以上低い問題）

問題番号	問　題　の　概　要	平均正答率（%）	
		青森県	全国比
１（２）	買ったリボンの長さと、１ｍ当たりのリボンの値段と、代金が、それぞれ数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ	６８．１	－１．８
２（２）	１０．３＋４を計算する	７８．４	－１．３
５	示された平行四辺形の面積の、半分の面積である三角形を正しく選ぶ	６５．０	－２．０

①概況及び課題

□　学習指導要領の領域別では、３問中２問が「数と計算」で、１問が「量と測定」であった。

□　評価の観点別では、３問中２問が「数量や図形についての知識・理解」で、１問が「数量や図形についての技能」であった。

（２）正答率の低い問題　（正答率が概ね６５％以下の小問。）

問題番号	問　題　の　概　要	平均正答率（%）	
		青森県	全国比
５	示された平行四辺形の面積の、半分の面積である三角形を正しく選ぶ	６５．０	－２．０

①概況及び課題

□　小問５は、高さが等しい平行四辺形と三角形について、底辺と面積の関係を理解しているかどうかをみる問題であり、正答率が６５％以下であった問題である。

□　学習指導要領の領域別では「量と測定」領域、評価の観点別では「数量や図形についての知識・理解」に関する問題である。

▼　全国的にも正答率が高くない問題である。高さが等しい平行四辺形と三角形について、底辺と面積の関係を理解する力が必要である。

②今後の対策・指導

◆　図形を構成・分解する活動と関連させながら、面積などの量は計算によって求めることができることの理解を深めることができるようにするために、次のような指導を行う。

面積などの量は計算で求めることができることの理解を深めるために

〇図形領域と関連させて、身の回りのものや色板などで図形を作ったり、図形を分解したりすること、紙を折ったり切ったりして図形を作ることなど、作業的な活動をする場を設定し、図形を構成する力を高める指導を行う。

〇面積などを求めるための式と構成・分解した図形を関連付けて、式に使われている数字や演算の意味を確認する場を設定し、面積などの求め方の理解を深める指導を行う。

〇「数量関係」領域と関連させて、面積などを求めるための公式に当てはめる一方の数値だけを換えたり、複数の数値を換えたりして、面積などの変わり方のきまりを見つける活動を設定し、計算で求めることのよさを実感できる指導を行う。

◆　本設問の具体的な指導として、次のことが考えられる。

底辺の長さと高さがそれぞれ等しい平行四辺形と三角形においては、図形の向きや形に依存せずに、三角形の面積は平行四辺形の面積の半分であることを理解できるようにすることが大切である。

①二つの合同な三角形を組み合わせたり、平行四辺形を対角線で二つの合同な三角形に分割したりすることで、三角形と平行四辺形の面積を比較し、平行四辺形の対角線で分割された２つの三角形の面積が等しくなることを捉えることができるようにする。

②平行四辺形の面積を求める式と三角形の面積を求める式を比較し、三角形の面積を求める式にある「÷２」の意味を捉えさせるようにする。

③面積を求める式と具体的な図の併用で、高さを固定した平行四辺形や三角形について、面積の求め方の理解することができるようにする。

（『平成２９年度全国学力・学習状況調査解説資料【小学校 算数】』Ｐ47の「学習指導に当たって」参照）

４　算数Ａに関する調査と質問紙調査との相関

（１）児童質問紙との相関

□　質問番号（６１）「５年生までに受けた授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか」

〈本県の状況〉

選択肢		平均正答率(%)	差	全国(国公私立)
1	「当てはまる」	８３．３	22.7ポイント	８２．５
2	「どちらかといえば、当てはまる」	７７．６		20.4ポイント
3	「どちらかといえば、当てはまらない」	７２．４		
4	「当てはまらない」	６０．６		６２．１

◆　授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思うかについて「当てはまる」と「当てはまらない」の差は２２．７ポイントであった。

児童に、課題意識や解決の見通しを持たせたり、授業のゴールをイメージさせたりするためには、本時の目標（めあて・ねらい）を板書するなどして示すことはもちろん、児童

自身が目標（めあて・ねらい）を意識できるような授業づくりに努める必要がある。

□　質問番号（８６）「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか」

〈本県の状況〉

選択肢		平均正答率(%)	差	全国(国公私立)
1	「当てはまる」	８４．９	23.8ポイント	８４．３
2	「どちらかといえば、当てはまる」	７７．７		23.6ポイント
3	「どちらかといえば、当てはまらない」	７０．７		
4	「当てはまらない」	６１．１		６０．７

◆　公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていると回答した児童ほど正答率が高く、「当てはまる」と「当てはまらない」との差は２３．８ポイントであった。

公式やきまりの理解と定着を図るためには、丸暗記をさせて多くの練習問題を解かせるのではなく、そのわけを図や式などをもとにして理解させる授業づくりに努める必要がある。

（２）学校質問紙との相関

□　質問番号（１６）「調査対象学年の児童は、学級やグループでの話合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができていると思いますか」

〈本県の状況〉

選択肢		平均正答率(%)	差	全国(国公私立)
1	「そのとおりだと思う」	８４．０	11.7ポイント	８０．８
2	「どちらかといえば、そう思う」	８０．５		9.5ポイント
3	「どちらかといえば、そう思わない」	７６．６		
4	「そう思わない」	７２．３		７１．３

◆　話合い活動で相手の考えを最後まで聞くことができていると思う学級ほど正答率が高く、そうでないと思う学級との差は１１．７ポイントであった。

算数に限らず、話合い活動を授業に取り入れるとともに、相手の考えを最後まで聞き理解しようとする態度を育てる指導に努める必要がある。

□　質問番号（１８）「調査対象学年の児童は，自らが設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組むことができていると思いますか」

〈本県の状況〉

選択肢		平均正答率(%)	差	全国(国公私立)
1	「そのとおりだと思う」	８４．５	12.4ポイント	８１．４
2	「どちらかといえば、そう思う」	８０．４		8.2ポイント
3	「どちらかといえば、そう思わない」	７２．１		７３．２
4	「そう思わない」	―		

◆　課題を理解して授業に取り組むことができている学級ほど正答率が高く、どちらかといえばそうでないと思う学級との差は１２．４ポイントであった。

算数に限らず、課題を提示する場や課題を理解させる場を大切に扱い、児童が見通しをもって課題解決に取り組むことができる授業づくりに努める必要がある。

Ⅳ　算数Ｂ「主として活用に関する問題」

１　科目全体の結果

算数Ｂ全体の平均正答率（%）		
青森県	全国比	前年度全国比
４８	＋２	＋０．７

□　算数Ｂ全体としては、本県は、全国をやや上回っている。

◆　基礎的・基本的な知識や技能を活用する力のさらなる向上に努める。

基礎的・基本的な知識や技能を活用する力を伸ばすために

○授業の導入段階で、本時の課題（問題）解決の見通しを児童にもたせ（解決に必要な考え方や知識・技能の関連を確かめて）、活用する意義を実感させてから、本時の課題（問題）に取り組ませる。

○毎日の授業や単元のまとめで取り組む適用問題及び、家庭学習で取り組む課題プリントの中に、数字や図形などの条件のみを換えた問題など基礎的・基本的な知識や技能を活用する問題を意図的に入れ、基礎的な内容を基にして、児童が考え、表現する力を育成する機会を増やす。

２　分類・区分別の結果と今後の対策

分　類	区　分	平均正答率（%）		
		青森県	全国比	前年度全国比
学習指導要領の領域	数と計算	５４．６	＋１．８	＋０．３
	量と測定	５０．９	＋３．９	＋０．８
	図形	１３．１	－０．１	＋０．２
	数量関係	４２．３	＋２．３	＋０．１
評価の観点	数学的な考え方	４７．５	＋２．１	＋１．２
	数量や図形についての技能			－１．１
	数量や図形についての知識・理解	４９．５	＋０．９	＋０．５

□　学習指導要領の領域別では、本県は４領域すべてにおいて全国と同程度かやや上回っている。

□　評価の観点別では、２観点すべてにおいて全国と同程度かやや上回っている。

□　全国比の前年度との比較では、学習指導要領の領域別「図形」が０．３ポイント下回ったものの、他の３領域において１．５～３．１ポイント上回った。

◆　「数学的な考え方」は全国をやや上回っているものの観点別の中ではまだ低い。

◆　「数学的な考え方」を身に付けさせるために、学習のねらいに則して次のような取組を行うようにする。

「数学的な見方や考え方」を身に付けさせるために

〇与えられた条件や根拠となる事実を明らかにして自分の考えを説明する場を設定した後、解決したことを振り返り、吟味・確認する活動をする。

〇友達の考え方のよさや自分の考えとのつながりを考えることを観点とした話合い活動を設定した後、話し合ったよさや友達の考え方を活用して、発展的な問題を解く活動を行い、よりよく問題解決できる力を育成する。

３　設問（小問）別の結果と今後の対策

（１）全国平均との比較（全国の平均正答率よりも概ね１ポイント以上低い問題）

□　本県は小問５（２）で、全国の平均正答率を０．１ポイント下回ったものの、他の全ての小問で、０．３～７．０ポイント上回った。

（２）正答率の低い問題（正答率が概ね５５％以下の小問。）

問題番号	問　題　の　概　要	平均正答率（%）	
		青森県	全国比
１（３）	２けたのひき算の答えを求めることができるきまりを書く	４２．４	＋３．８
２（１）	小さい封筒で手紙を送る場合と大きい封筒で手紙を送る場合の、料金の差の求め方と答えを書く	４１．６	＋１．２
２（２）	直線の数とその間の数の関係に着目して、示された方法を問題場面に適用することができる	２７．７	＋０．３
３（２）	仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求める	３３．５	＋７．４
４（１）	示された式の中の数が表す意味を書き、その数が表のどこに入るかを選ぶ	４１．３	＋１．５
４（２）	学年全体の人数に対するハンカチとティッシュペーパーの両方を持ってきた人数の割合を表しているグラフを選ぶ	３０．７	＋１．４
５（２）	与えられた情報から、基準量、比較量、割合の関係を捉え、「最大の満月の直径」に近い硬貨を選び、選んだわけを書く	１３．１	－０．１

①概況及び課題

□　上記７問のうち、６問は評価の観点が「数学的な考え方」の問題である。

□　上記７問は、指導要領の領域では、「数と計算」が３問（うち２問は、「数量関係」を含む)、「量と測定」が１問（「数量関係」を含む)、「図形」が１問（「数量関係」を含む)、「数量関係」が２問であった。

□　上記７問の無答率は、全国平均を下回っていたことから、本県の児童は、問題に対して粘り強く取り組んでいることが窺える。

◆　日常生活と関連付けて、数量や図形の意味を実感的に理解させるために、作業的・体験的な活動を行った後、きまりや共通性を見つけたり、見つけたことを一般化したりして、概念化を図る機会を増やす必要がある。

◆　小問１（３）については、見いだしたきまりを言葉、図、式などで表現させることにとどまらず、「全ての表現に共通していることはどのようなことですか」と関連付けて考えることができる発問をし、児童自らが、見いだしたきまりを言葉や式で一般化できるような機会を増やすことが必要である。

◆　小問２（１）については、料金の差を求めるために、示された資料から必要な数値を適切に選び、その求め方を式の意味やその式にした理由を言葉で補いながら説明する機会を増やす必要がある。

◆　小問２（２）、小問３（２）、小問４（１）については、モデルとなる考えを解釈し、問題場面に適用する問題である。友達の考えを聞いた後、友達の考えをもう一度自分なりの言葉や式、図などで表現する活動を設定し、理解できたかを見取ったり、聞いた友達の考え方を使って適用問題を解いてみたりする機会を増やす必要がある。

◆　小問４（２）については、各学年で学習するグラフのかき方や読み取り方にとどまらず、既習のグラフと比べたときの特徴やよさについて話し合う機会を増やす必要がある。

◆　小問５（２）については、問題場面を身近にある似た場面や簡単な数値にした場面に置き換え、問題場面と置き換えた場面の数値を関連付けて考えることが必要である。また、その答えにした根拠をもたせるには、計算した答えの意味を問い返しながら、集団での話合いをする必要がある。

②今後の対策・指導

◆　数学的に表現する力を伸ばすためには、次のような指導を行う。

数学的に表現する力を伸ばすために

〇日常生活の事象と関連付けて考える活動や、算数で学んだことを使って日常生活の事象を解決する活動の充実を図る。

〇説明として必要な根拠を満たしているか吟味することを観点とした話合いを行い、よりよい説明に高めて表現する指導の充実を図る。

〇問題を解決した後、学習したことを児童がさらに発展させて新たな問題を見つけたり、数値や形などの異同を確認しながら理由を考えたりする活動の充実を図る。

〇学習の結果のみではなく、自分の考えがどのように変わってきたかなどの学習の過程を振り返る活動の充実を図る。

◆　数学的な考え方を用いて、合理的に判断し、能率的に処理する活動や、根拠となる事柄を過不足なく説明する指導を行う。

◆　言葉や数、式、図、表、グラフなどを関連付けて考え、考えたことを言葉や式で表現する活動を多く取り入れる。

◆　小問１（３）については、数量の関係を言葉や式を用いて一般化して表現することができるようにするために、児童の発言内容をよく聞き取り、児童が発言内容に内在する数学的な価値について意識できるようにする学習活動を展開する。（『平成２９年度全国学力・学習状況調査報告書【小学校算数】』Ｐ69の「学習指導に当たって」及び『平成２９年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイディア例 小学校』Ｐ9～10参照）

◆　算数の用語を使って説明した場合には、児童が具体的なイメージをもって説明を聞いているかを見取りながら、具体的な数値に置き換えたり、図にして視覚的に示したりするな

ど、より分かりやすい説明に高める指導を行う。

◆　小問２（１）については、情報の中から条件に合うものを選択し、数学的に処理することができるようにするために、教師から整理された情報を与えるのではなく、児童自らが情報を整理した上で、必要な情報を選択し、問題を解決できるようにする学習活動を展開する。(『平成２９年度全国学力・学習状況調査報告書【小学校算数】』Ｐ74の「学習指導に当たって」参照)

◆　数学的な処理をした際には、問題場面に立ち返り、どんな結果をするために計算などを行ったのかや求めた数値や答えの意味をもう一度吟味したりするなど、解決の過程を振り返る活動を多く取り入れる。

◆　小問２（２）については、示された方法を解釈し、その方法を問題場面に適用することができるようにするために、言葉や数、式、図などと対応させながら解釈する学習活動を展開する。(『平成２９年度全国学力・学習状況調査報告書【小学校算数】』Ｐ76参照)

◆　示された方法を解釈した際には、解釈したことをペアや少人数グループで発表し合い、一人一人がもう一度話すことによって理解を定着させる活動を取り入れる。

◆　小問３（２）については、測定値の平均を工夫して求めるよさを実感できるようにするために、グラフ、式、言葉などを関連付けて式の中の数値の意味を解釈し、説明する学習活動を展開する。(『平成２９年度全国学力・学習状況調査報告書【小学校算数】』Ｐ83の「学習指導に当たって」参照)

◆　考え方のよさを実感させる際には、自分と違う考えを聞くだけでなく、聞いたことを式や図で表してみたり、違う考えをもう一度再現してみたりして、実感的に捉えさせ、それぞれの考えを比較する活動を取り入れる。

◆　小問４（１）については、分類整理した資料を目的に応じて二次元表に作り直す活動を通して、二次元表の理解を深めることができるようにするために、式の意味を二次元表と関連付けて、二つの項目に着目し説明し合いながら、二次元表に数を適切に当てはめることができるような学習活動を展開する。(『平成２９年度全国学力・学習状況調査報告書【小学校算数】』Ｐ88の「学習指導に当たって」及び『平成２９年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイディア例 小学校』Ｐ11～12参照)

◆　さらに、二つの一元表とそれから一つにした二元表を比較し、二次元表には、一元表では見えていなかった情報があることに気付かせ、情報をより分析的に考察する活動を取り入れる。

◆　小問４（２）については、様々なグラフの特徴を理解し、目的に応じて、適切なグラフを選択できるようにするために、どのような情報が示されているグラフか解釈し、どのグラフが目的に適しているか判断する学習活動を展開する。(『平成２９年度全国学力・学習状況調査報告書【小学校算数】』Ｐ90の「学習指導に当たって」参照)

◆　小問５（２）については、数量の関係を身近なものに置き換えたときの基準量・比較量・割合の関係を的確に捉え、判断の理由を数学的に表現することができるようにするために、違いを図で表現し比較したり、判断した理由を、数量の関係を表す図や基準量・比較量・割合の関係を基に説明したりする学習活動を展開する。(『平成２９年度全国学力・学習状況調査報告書【小学校算数】』Ｐ99の「学習指導に当たって」及び『平成２９年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイディア例 小学校』Ｐ13～14参照)

◆　基準量・比較量・割合の関係を捉えさせるために、関係を捉えていない式や図を取り上げ、関係を正しく捉えている式や図と比較しながら、数値や図の意味を問い直し、どこを修正すれば関係を正しく捉えていけるかを話し合う活動も取り入れる。

４　算数Ｂに関する調査と質問紙調査との相関

（１）児童質問紙との相関

□　質問番号（８２）「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」

〈本県の状況〉

選択肢		平均正答率 (%)	差	全国(国公私立)
1	「当てはまる」	５４．０	23.9ポイント	５２．４
2	「どちらかといえば、当てはまる」	４５．０		24.1ポイント
3	「どちらかといえば、当てはまらない」	３７．６		
4	「当てはまらない」	３０．１		２８．３

◆　算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えると回答した児童ほど正答率が高く、「当てはまる」と「当てはまらない」の差は２３．１ポイントであった。

　算数に限らず、問題を解く場合には一つの方法だけで終わるのではなく他の方法でも解けるか考えさせるとともに、いろいろな考え方を学級で共有する活動の充実に努める必要がある。

□　質問番号（５６）「５年生までに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか」

〈本県の状況〉

選択肢		平均正答率 (%)	差	全国(国公私立)
1	「当てはまる」	５２．２	22.7ポイント	５１．２
2	「どちらかといえば、当てはまる」	４４．８		21.8ポイント
3	「どちらかといえば、当てはまらない」	３８．０		
4	「当てはまらない」	２９．５		２９．４

◆　授業の中で自分の考えを発表する機会が与えられていたと思うかについて「当てはまる」と「当てはまらない」の差は２２．７ポイントであった。

　算数に限らず、児童に自分の考えをもたせるとともに、個々の考えを発表させ学級で共有する活動の充実に努める必要がある。

（２）学校質問紙との相関

□　質問番号（１７）「調査対象学年の児童は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」

〈本県の状況〉

選択肢		平均正答率(%)	差	全国(国公私立)
1	「そのとおりだと思う」	５０．７	13.5ポイント	４８．８
2	「どちらかといえば、そう思う」	４９．０		9.6ポイント
3	「どちらかといえば、そう思わない」	４４．９		
4	「そう思わない」	３７．２		３９．２

◆　話合い活動で自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う学級ほど正答率が高く、そうでないと思う学級との差は１３．５ポイントであった。

算数に限らず、話合い活動を授業に取り入れるとともに、自分の考えをもたせじっくりと考えさせたり相手に伝えたりする指導に努める必要がある。

□　質問番号（１９）「調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか」

〈本県の状況〉

選択肢		平均正答率(%)	差	全国(国公私立)
1	「そのとおりだと思う」	５５．６	13.2ポイント	５０．１
2	「どちらかといえば、そう思う」	４８．８		11.7ポイント
3	「どちらかといえば、そう思わない」	４５．９		
4	「そう思わない」	４２．４		３８．４

◆　考えが上手く伝わるよう、資料や文章、話しの組み立てなどを工夫して、発言や発表ができていると思う学級ほど正答率が高く、そうでないと思う学級との差は１３．２ポイントであった。

算数に限らず、自分の考えをうまく伝えることができるよう、発表の場の設定や発表のさせ方などを工夫し言語活動の充実に努める必要がある。

＜平成２８年度県学習状況調査を踏まえて（算数）＞

【知識・理解】

平成２８年度県学習状況調査実施報告書において、「図形」では、既習の図形の性質を使って筋道立てて説明する力や直方体を構成する面や辺などを基に思考・判断する力について課題が見られた。今後の指導においては、図形と式を関連付けて論理的に考察する活動や日常生活の事象を図形の定義（約束）や性質と関連付けて考える活動を取り入れた授業を計画的に行うことが有効であることとした。また、図形の性質を理解する際には、学習の系統性を意識するとともに、具体物を用いて作業的・体験的な活動を多く取り入れ、その理解が実感的なものとなるよう指導の充実を図ることとした。

平成２９年度全国学力・学習状況調査算数Ｂ「図形」では、全国の正答率と比較し０．１

ポイント下回ったものの、ほぼ同程度であった。今後も「図形」の領域への指導に重点を置きながら指導する必要がある。

【数学的な見方・考え方】

平成２８年度学習状況調査実施報告書において、図形の特徴や算数の用語を適切に用いて、事実と結論を結び付け論理的に説明する力の向上が課題であるとして、今後の指導としては、まず、事実として分かっていること（既習事項）や調べたことの振り返り方を示しながら、事実と結論をつなげて表現させることが大切であることとした。

また、「活用」に関する問題において、目的に合わせて適切に判断して概数を使うこと（「数と計算」）、表から必要な情報を選択して式に表したり、きまりを見つけたりすること（「数量関係」）において改善が見られたとしながら、今後は、学習した算数の用語を使って「筋道を立てて考える」、「事象を数学的に解釈する」、「自分の考えを言葉で説明する」、「自分の考えを数学的な表現を用いて説明する」、「自分の変容を振り返って考える」などの算数的活動を取り入れた授業が大切であることとした。

平成２９年度の全国学力・学習状況調査算数Ｂの「数学的な見方・考え方」では、全国の正答率と比較し、２．１ポイント上回っていた。出題された「数学的考え方」の９問中、６問を本冊子では取り上げたが、そのうち５問が「数量関係」の領域に関係している。今後も「数量関係」の領域への指導に重点を置きながら指導する必要がある。

Ⅴ　質問紙調査

１　児童質問紙調査の結果と今後の対策

（１）学習に対する関心・意欲・態度及び学習状況

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より５ポイント以上高かった質問】　（単位：％）

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
54「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいるか 【「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	７６．０	＋６．２	＋６．４

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

□　総合的な学習の時間に、自分で課題を立てて情報を集め整理し、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる児童の割合は、全国を上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね９５％程度）質問】　（単位：％）

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
8友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができるか 【「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	９５．５	＋１．２	＋１．１

□　友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる児童の割合が、極めて高い。

【全国平均又は前年度県平均より５ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね５０％未満）質問：なし】

（参考：児童質問紙**67**より）

・学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたりすることは難しいと思っている児童の割合は、５１．８％で半数程度である。

②今後の対策・指導

◆　授業を行うに当たっては、引き続き、次のようなことを心がけるようにする。

「自分の考えや意見を他の人に説明したり、文章を書いたりする力」を高めるために

○児童の実態、学習の目標や内容に応じて、ペアやグループなど学習形態を工夫しながら考えや意見を発表し合う機会を意図的に設け、どの児童にも自分の考えを相手に伝える体験をさせる。また、友達の意見を共感的に聞けるよう、引き続き、話しやすい学級の雰囲気づくりにも心がけ、児童が自信をもって話すことができるようにする。

○書く活動を授業の中で形式的に取り入れるのではなく、児童の気付き、驚き等を引き出す授業を展開するとともに、児童にとって必然性のある表現活動を設定し、意欲的に書いたり話したりする活動に取り組めるようにする。

（２）学習時間等

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より５ポイント以上高かった質問】　（単位：％）

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
16土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしているか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間を含む）【「1時間以上」の合計】	６９．１	＋１１．８	－１．９
29家で、自分で計画を立てて勉強をしているか【「している」「どちらかといえば、している」の合計】	７０．１	＋５．６	＋２．３
31家で、学校の授業の予習をしているか【「している」「どちらかといえば、している」の合計】	４９．６	＋８．６	－４．１
32家で、学校の授業の復習をしているか【「している」「どちらかといえば、している」の合計】	７７．２	＋２３．４	－２．５

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

□　休日に、１日あたり１時間以上勉強をしている児童の割合は、全国を大きく上回っている。その内訳は、４時間以上（2.8%）、３～４時間（5.4%）、２～３時間（17.4%）、１時間～２時間（43.5%）、１時間未満（25.7%）、全くしない（5.0%）である。

□　家で、自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合は、全国を上回っている。

□　家で、学校の授業の予習をしている児童の割合は、全国を上回っている。

□　家で、学校の授業の復習をしている児童の割合は、全国を極めて大きく上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね９５％程度）質問】　（単位：％）

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
30家で、学校の宿題をしているか【「している」「どちらかといえば、している」の合計】	９７．３	＋０．４	－０．３

□　家で、学校の宿題をしている児童の割合が、極めて高い。

【全国平均又は前年度県平均より５ポイント以上低かった質問】　（単位：％）

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
17学習塾（家庭教師を含む）で勉強をしているか【「勉強している」の合計】	２８．１	－１７．７	－０．４

▼　学習塾（家庭教師を含む）で勉強している児童の割合は、全国を大きく下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね５０％未満）質問】　（単位：％）

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
18学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、読書をしているか【「30分以上」の合計】	３６．４	－０．１	－１．２
19昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行くか【「週に1回以上行く」の合計】	１５．３	－０．３	－１．４

▼　普段、３０分以上読書をしている児童の割合は、４割以下であり、前年度より低くな

っている。

▼　学校図書館、学校図書室や地域の図書館に週に１回以上行く児童の割合は、極めて低くなっている。

②今後の対策・指導

◆　今後も家庭での学習が計画的・継続的に行われるよう支援するとともに、学ぶことや方法を児童自らが選び、家庭学習に取り組めるよう支援する。

◆　各教科等の指導として、学習したことが読書活動に発展するような授業展開を工夫する。また、その内容を学級通信等を活用して家庭に情報発信し、家庭でも読書習慣を身に付けさせるよう、家庭との連携を図る。

（３）基本的生活習慣等

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より５ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね９５％程度）質問】　（単位：％）

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
28家の人（兄弟姉妹を除く）は、授業参観や運動会などの学校の行事に来ているか【「よく来る」「時々来る」の合計】	９７．０	＋０．９	（新規）

□　授業参観や運動会などの学校の行事に、家の人が来ている児童の割合が、極めて高い。

【全国平均又は前年度県平均より５ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね５０％未満）質問】　（単位：％）

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
12普段（月～金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・ＤＶＤを見たり、聞いたりするか【「1時間より少ない」の合計】	１６．４	－０．５	＋０．５
13普段（月～金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをするか【「1時間より少ない」の合計】	４４．９	＋０．５	－１．５

▼　普段、１時間以上テレビやビデオ、ＤＶＤを見たり、聞いたりする児童は、前年度と同程度で８割以上である。

▼　普段、１時間以上テレビゲームをする児童の割合は、５割以上であり、前年度より高くなっている。

②今後の対策・指導

◆　道徳や特別活動など、さまざまな機会を通じて、具体的な事例を示し、基本的な生活習慣や節度ある生活を身に付けさせるようにする。特に、テレビを見る時間やテレビゲームをする時間については、各家庭でのルールが守られるよう、指導の工夫を図る。

◆　保護者集会や各種通信等を通じて、基本的な生活習慣や節度ある生活を身に付けさせるよう、家庭との連携を図る。

（４）地域・社会との関わり

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より５ポイント以上高かった質問】　（単位：％）

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
42地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあるか【「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	４７．７	＋５．４	（新規）

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

□　地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある児童の割合は、全国を上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね９５％程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より５ポイント以上低かった質問】　（単位：％）

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
40今住んでいる地域の行事に参加しているか【「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	５６．１	－６．５	－５．９
41地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか【「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	６７．５	＋３．６	－５．１

▼　地域の行事に参加している児童の割合は、全国及び前年度を下回っている。

▼　地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある児童の割合は、前年度を下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね５０％未満）質問】　（単位：％）

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
44地域の大人（学校や塾・習い事の先生を除く）に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがあるか【「よくある」「時々ある」の合計】	４４．２	＋３．１	（新規）
45新聞を読んでいるか【「ほぼ毎日読んでいる」「週に1～3回程度読んでいる」の合計】	２３．５	＋２．５	－２．９
48将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いたりしてみたいと思いますか【「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計】	３４．９	＋１．３	（新規）

▼　地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがある児童の割合は、５割以下である。

▼　新聞を週に１回以上読んでいる児童の割合は、約３割にとどまっている。

▼　将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いたりしてみたいと思っている児童は、約３分の１である。

②今後の対策・指導

◆　地域の人たちや関係機関の協力を得ながら、引き続き、次のようなことを心がける。

地域や社会との関わりの質的な充実を図るために

○各教科等の学習において、適切な題材や場面で地域や社会とのつながりをもたせた学習指導を行うことで、児童に学習した内容が実生活で生かせる実感をもたせる。

○総合的な学習の時間の学習素材として、地域の行事や祭りなどの地域に関する内容を取り扱い、自分が住んでいる地域に対する興味・関心をもたせるようにする。具

体的には、地域の人たちに関わる場を設定したり、地域の自慢できることを検討したりする学習活動を取り入れ、地域のよさを児童自ら再確認することによって、地域の一員としての自覚や参画する意識を育てるようにする。また、地域の人たちとの触れ合いは、児童の視野を広げ、自己の将来を具体的に描くことや学習に対する意欲付けにつながる効果も期待できることから、地域の人材バンクの作成に努める。

○地域行事等の情報を教師自ら積極的に収集・提供し、参加を促したり、朝や帰りの会等で新聞記事を紹介し、その出来事について発表し合う場を継続的に設けたりしていく必要がある。

（５）児童の意識

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より５ポイント以上高かった質問】　（単位：％）

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
36学級会などの話合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめているか【「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計】	５５．８	＋５．５	－８．１
38先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うか【「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	８９．６	＋３．６	＋５．４
39先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれるか【「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	９０．９	＋５．８	＋１．５

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

□　学級会などの話合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたり話し合い、意見をまとめている児童の割合は、前年度を下回ったものの全国を上回っている。

□　自分のよいところを先生が認めてくれていると思う児童の割合は、前年度を上回っている。

□　授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、先生が分かるまで教えてくれていると思う児童の割合は、全国を上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね９５％程度）質問】　（単位：％）

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
4ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがあるか【「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	９５．３	＋０．５	＋０．７
34学校で、友達に会うのは楽しいと思うか【「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計】	９６．８	＋０．４	＋０．８
50友達との約束を守っているか【「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	９７．５	＋０．３	±０．０
52いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか【「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	９７．１	＋１．０	－０．３

□　ものごとを最後までやり遂げてうれしさを体験した児童の割合が、極めて高い。

□　学校で、友達に会うのが楽しいと思う児童の割合が、極めて高い。

□　友達との約束を守っている児童の割合が、極めて高い。

□　いじめはいけないことだと認識している児童の割合が、極めて高い。

【全国平均又は前年度県平均より５ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね５０％未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

◆　学級内で一人一人に役割を与えたり、活躍できるような活動を取り入れたりするなど自己肯定感をもたせる指導や自己有用感をもたせる活動を設定し、今後も児童のよさをより一層積極的に評価していく。

◆　学習規律やきまり、約束を守ることの大切さを今後も継続して指導していく。

◆　あらゆる機会を通じて、「いじめは人間として絶対に許されない」という意識を徹底させるとともに、引き続き、児童同士の心の結び付きを深め、社会性を育む活動を推進し、いじめの未然防止を図る。

２　学校質問紙調査の結果と今後の対策

（１）学習態度

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より５ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね９５％程度）質問：なし】

（参考：学校質問紙**12**より）

・児童が熱意をもって勉強していると感じている学校の割合は、９４．０％で前年度をやや上回っている。

【全国平均又は前年度県平均より５ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね５０％未満）質問：なし】

（参考：学校質問紙**13**より）

・児童が授業中の私語が少なく落ち着いていると感じている学校の割合は、全国９０．７％に対して青森県８６．２％と９割を切っている。

②今後の対策・指導

◆　授業を行うに当たっては、引き続き、次のようなことを心がけるようにする。

学習意欲を高めるために

〇主体的に学習に取り組むことのよさを感じさせ、望ましい学習に向かう姿勢を積極的に認めるようにする。

〇授業の導入段階で、児童の興味関心をもとに学習課題を設定するなど、児童の学習への意欲を喚起する。

〇児童が学習を行う上で、見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするなどの主体的な学習活動を重視する。

◆　「私語をしない」「話している人の方を向いて聞く」などの学習規律に関する指導を継続する。

（２）指導方法・学習規律

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より５ポイント以上高かった質問】　（単位：％）

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
45将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしたか　【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	８９．７	＋１４．０	＋６．２

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

□　将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている学校の割合は、前年度を上回るとともに全国を大きく上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね９５％程度）質問】　（単位：％）

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
33授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れたか　【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	９９．６	＋０．６	＋０．３
38授業で扱うノートに、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書くように指導したか　【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	９９．７	＋２．３	＋１．０
48学習規律の維持を徹底したか　【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	９７．１	＋０．４	＋０．５
51学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け、児童に伝えるなど積極的に評価したか　【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	９９．０	＋１．６	±０．０

□　ほとんどの学校で、授業の中で目標を示す活動を計画的に取り入れている。

□　ほとんどの学校で、授業で扱うノートに、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書くように指導している。

□　ほとんどの学校で、学習規律の維持を徹底している。

□　ほとんどの学校で、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け、児童に伝えるなど積極的に評価している。

【全国平均又は前年度県平均より５ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね５０％未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

◆　授業を行うに当たっては、引き続き、次のようなことを心がけるようにする。

主体的な学習態度を育てるために

○児童の問い・驚き・気付きを大事にし、児童にとって自分事として捉えられる課題（めあて）を設定する。

○一人一人の児童に自分の考えをもたせた上でグループ学習やペア学習等の話合い活動の場を設定し、考えを深めさせたり広げさせたりする。

○振り返りの場では、児童の言葉で学習のまとめをするとともに、学習を通して自分

ができるようになったことや分かったことなどを話させ、児童自身に学びを自覚させるようにする。

（３）学力向上に向けた取組等

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より５ポイント以上高かった質問】　（単位：%）

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
15学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思うか　【「そのとおりだと思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計】	７８．５	＋１．０	＋７．２
17学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うか　【「そのとおりだと思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計】	７０．７	－１．０	＋６．６
19自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思うか　【「そのとおりだと思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計】	６０．８	－２．２	＋５．７
23放課後を利用した補充的な学習サポートを実施したか　【「週に1回以上行った」以上の合計】	５３．０	＋１９．９	＋５．４
25長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施したか　【「行った」の合計】	７５．６	＋１１．４	－０．１
28各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列しているか　【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	８７．２	＋０．５	＋５．７
30児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のＰＤＣＡサイクルを確立しているか　【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	９８．２	＋６．７	＋２．７

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

□　学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えたり、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う学校の割合は、前年度を上回っている。

□　自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思う学校の割合は、前年度を上回っている。

□　放課後や長期休業日を利用して、補充的な学習サポートを実施した学校の割合は、全国を大きく上回っている。

□　各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列している学校の割合は、前年度を上回っている。

□　児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図っている学校の割合は、全国を上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね９５％程度）質問】　（単位：％）

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
35各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けたか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	９６．５	＋３．２	＋４．０
36様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしたか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	９７．２	＋１．７	＋３．３
37発言や活動の時間を確保して授業を進めたか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	９８．６	＋０．３	＋２．３
39学級やグループで話し合う活動を授業などで行ったか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	９６．９	－０．５	－０．７
44自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしたか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	９６．１	＋１．４	＋１．６
107学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしているか 【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	９５．４	＋４．３	＋１．６
109学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有しているか 【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	９９．６	＋０．８	－０．１
110学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいるか 【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	９９．３	＋１．３	＋１．７

□　ほとんどの学校で、指導のねらいを明確にした言語活動を適切に位置付けている。
□　ほとんどの学校で、様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている。
□　ほとんどの学校で、発言や活動の時間を確保して授業を行っている。
□　ほとんどの学校で、学級やグループで話し合う活動を授業などで行っている。
□　ほとんどの学校で、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしている。
□　ほとんどの学校で、言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で検討している。
□　ほとんどの学校で、学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している。
□　ほとんどの学校で、学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいる。

【全国平均又は前年度県平均より５ポイント以上低かった質問】　（単位：％）

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
22図書館資料を活用した授業を計画的に行ったか 【「学期に数回以上」の合計】	６７．２	－１６．７	－６．５
24土曜日を利用した補充的な学習サポートを実施したか 【「行った」の合計】	３．３	－６．７	＋２．３

▼　図書館資料を活用した授業を計画的に行った学校の割合は、全国を大きく下回り、ま

た、前年度を下回っている。

▼　土曜日を利用して補充指導を実施した学校の割合は、全国を下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね５０％未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

◆　小学校の新学習指導要領の趣旨を踏まえ、児童の資質・能力を育成するため、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図る必要がある。その際、各教科等の特質に応じて、具体的な学習内容、単元や題材などの構成、学習の場面等に応じた指導方法について研究を重ね、適切な指導方法を選択しながら工夫して実践していく必要がある。

◆　児童が主体的に課題を解決する手段の１つとして、学校図書館等を計画的に活用する習慣を身に付けさせるようにする。公立図書館の配本サービス（レファレンスサービス）を活用して、学習する単元に関わる複数の書籍類をセットとして借り受け、児童の主体的な調べ学習に活用する。

（４）各教科の指導方法

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より５ポイント以上高かった質問】　（単位：％）

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
52コンピュータ等の情報通信技術を活用して、子供同士が教え合い学び合うなどの学習や課題発見・解決型の学習指導を行ったか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	７４．２	＋２．６	＋６．７
54算数の授業において、コンピュータ等の情報通信技術を活用した授業を行ったか 【「月1回以上」の合計】	４６．６	－８．８	＋５．５
71算数の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行ったか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	６５．４	－１．５	＋８．６

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

□　コンピュータ等の情報通信技術を活用して、子供同士が教え合い学び合うなどの学習や課題発見・解決型の学習指導を行った学校の割合は、前年度を上回っている。

□　算数の授業において、コンピュータ等の情報通信技術を活用した授業を行った学校の割合は、全国を下回っているものの前年度を上回っている。

□　算数の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行った学校の割合は、前年度を上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね９５％程度）質問】　（単位：％）

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
69国語の指導として、前年度までに、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行ったか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	９７．５	－０．６	－２．２
73算数の指導として、前年度までに、計算問題などの反復練習をする授業を行ったか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	９７．８	＋０．３	＋０．９

□　ほとんどの学校で、国語の授業で漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる

授業や、算数の授業で計算問題などの反復練習をする授業を行っている。

【全国平均又は前年度県平均より５ポイント以上低かった質問】　（単位：%）

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
53国語の授業において、コンピュータ等の情報通信技術を活用した授業を行ったか　【「月1回以上」の合計】	３３．３	－１１．６	＋２．２
65国語の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行ったか【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	４７．３	－５．４	－０．６

▼　国語の授業で、月１回以上コンピュータ等の情報通信技術等を活用した授業を行った学校の割合は、全国を大きく下回っている。

▼　国語の授業で発展的な学習の指導を行った学校の割合は、全国を下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね５０%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

◆　児童の実態に応じ、効果的な場面において、コンピュータ等の情報通信技術等を活用する。

◆　日常の授業の中で基礎・基本の定着を図った上で、児童の実態を考慮しながら発展的な内容の指導を行うなど、自主学習に結び付ける工夫をする。

（５）個に応じた指導

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より５ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね９５%程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より５ポイント以上低かった質問】　（単位：%）

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
60算数の授業において、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしたか　【「行った」の合計】	５４．０	－７．９	＋３．４
61算数の授業において、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱ったか　【「行った」の合計】	４３．５	－１１．５	＋１．８
75学校の教員は、特別支援教育について理解し、児童の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫など）を行ったか　【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	８４．８	－６．５	＋１．９

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

▼　算数の授業において、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにした学校の割合は、全国を下回っている。

▼　算数の授業において、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱った学校の割合は、全国を大きく下回っている。

▼　特別支援教育についての理解のもと、児童の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明

の仕方、教材の工夫など）を行った学校の割合は、全国を下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね５０％未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

◆　習熟度別学習や少人数学習、発展的な学習、補充的な学習などの学習を取り入れることにより、個に応じた指導を適切に実施する。

◆　全ての学級において発達障害を含めた障害のある児童が在籍することを前提とした学級経営が求められる。特別な支援を要する児童の指導に当たっては、校内研修等で特別支援教育について全教職員が共通理解したり、個別の指導計画を作成したりして、適切な指導や支援を組織的・継続的に実施する。

（６）家庭学習

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より５ポイント以上高かった質問】　（単位：％）

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
97家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしたか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	９８．６	＋６．４	＋４．１

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

□　家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにした学校の割合は、全国を上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね９５％程度）質問】　（単位：％）

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
90国語の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えたか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	９９．６	±０．０	＋０．３
91国語の指導として、児童に与えた家庭学習の課題について、評価・指導したか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	１００．０	＋１．６	＋２．０
92算数の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えたか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	１００．０	＋０．４	＋０．４
93算数の指導として、児童に与えた家庭学習の課題について、評価・指導したか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	１００．０	＋１．４	＋２．４
94保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけを行ったか　（国語／算数共通） 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	９８．６	＋１．６	＋０．６

□　ほとんどの学校で、国語・算数の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えるとともに、評価・指導も行っている。

□　ほとんどの学校で、保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけを行っている。

【全国平均又は前年度県平均より５ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね５０％未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

◆　家庭学習は、学習したことを児童に定着させるためには欠かせないものであるため、引き続き、次のようなことを心がけるようにする。

家庭学習を充実させるために

○家庭学習の課題の与え方について、学校や児童の実態を考慮し、引き続き、学年ごとの基本的な学習時間､教科ごとの学習方法等について教職員間で共通理解を図る。

○学習内容の定着を図るためのドリルやプリント学習だけではなく、児童の自主的な学習を大事にした課題や、調べたり文章を書いたりする課題を定期的に出すなど、学習の内容や方法を具体的に指導する。

○引き続き、児童一人一人の家庭学習を積極的に評価し、見本となる児童の家庭学習の方法（ノート等）を紹介するなど、家庭学習の内容が充実するように支援する。

○家庭学習の習慣化を図るために、学校側から保護者に対して家庭学習に対する考え方を示したり、話し合う場を設けたりして、家庭と協力して取り組む。

（７）教員研修及び教職員の取組

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より５ポイント以上高かった質問】　（単位：％）

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
100模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っているか　【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	９４．７	－０．９	＋８．１
102個々の教員が、自らの専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決めており、校外の教員同士の授業研究の場に定期的・継続的に参加しているか　【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	９４．４	＋８．９	＋４．７

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

□　模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っている学校の割合は、前年度を上回っている。

□　個々の教員が自らの専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決め、校外の教員同士の授業研究の場に定期的・継続的に参加していると回答した学校の割合は、全国を上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね９５％程度）質問】　（単位：％）

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
55平成２８年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有したか　【「よく行った」「行った」の合計】	９９．７	＋１．４	＋１．８
56平成２８年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用したか　【「よく行った」「行った」の合計】	９８．２	＋１．６	＋３．０
59全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を	９５．４	＋１．９	－０．５

行っているか　【「よく行っている」「どちらかといえば、行っている」の合計】			
98校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っているか【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	１００．０	＋０．８	±０．０
101教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしているか【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	１００．０	＋２．７	＋０．７
105教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させているか【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	９９．６	＋３．２	＋０．９
106学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、教職員同士が協力し合っているか【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	９５．４	－０．４	－０．２
111校長は、校内の授業をどの程度見て回っているか【「週に2日以上」の合計】	９６．８	＋２．３	＋２．０

□　ほとんどの学校で、平成２８年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有し、教育活動を改善するために活用している。

□　ほとんどの学校で、全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等へ反映させている。

□　すべての学校で、校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っている。

□　ほとんどの学校で、教職員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修や校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている。

□　ほとんどの学校で、学習指導と学習評価の計画の作成に当たって、教職員同士が協力し合っている。

□　ほとんどの学校で、校長は、週に２回以上、校内の授業を見回っている。

【全国平均又は前年度県平均より５ポイント以上低かった質問】　（単位：％）

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
104授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施したか【「年間9回以上」の合計】	３３．５	－１９．９	－１．１

▼　授業研究を伴う校内研修を年間９回以上実施した学校の割合は、全国を大きく下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね５０％未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

◆　校内研修の推進に当たっては、引き続き、次のようなことを心がける。

組織的な取組を推進するために

○全国学力・学習状況調査結果を自校において分析し、その結果について学校全体で共有することが大切である。特に、課題解決の方策については全教員で検討し、調査実施学年以外の学年や調査実施教科以外の教科等の指導改善等を明確にする必要がある。

○調査結果で明らかとなった成果と課題について、参観日の全体会や学校通信等を通

じて保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行うとともに、学力向上のための取組について理解と協力を求める。

○校内研修では、課題の見られた点を中心に、教職員の指導力の向上、指導内容や指導方法等の改善を図るため、模擬授業・事例研究・ＩＣＴの活用など実践に生かせる内容も適宜取り入れ、校内研修の充実に努める。

（８）学校種間の連携及び地域の人材・施設の活用

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より５ポイント以上高かった質問】　（単位：％）

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
79平成２８年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有したか　【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	４３．８	－９．２	＋１１．３

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

□　近隣等の中学校と、全国学力・学習状況調査の分析結果についての成果や課題を共有した学校の割合は、全国を下回っているものの、前年度を大きく上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね９５％程度）質問】　（単位：％）

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
85自然の中での集団宿泊活動を行ったか　【「行った」の合計】	９７．９	＋３．７	－０．７
87ＰＴＡや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれるか　【「よく参加してくれる」「参加してくれる」の合計】	９７．９	－０．７	＋１．６
89保護者や地域の人の学校支援ボランティア活動は、学校の教育水準の向上に効果があったか　【「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計】	９７．１	－０．２	＋０．５

□　ほとんどの学校で、自然の中での集団宿泊活動を行っている。

□　ほとんどの学校で、ＰＴＡや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加している。

□　ほとんどの学校で、保護者や地域の人の学校支援ボランティア活動は、学校の教育水準の向上に効果があったと回答している。

【全国平均又は前年度県平均より５ポイント以上低かった質問】　（単位：％）

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
76近隣等の中学校と、教育目標を共有する取組を行ったか　【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	４３．１	－１５．０	＋０．６
78近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行ったか　【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	４２．７	－８．６	－１．５
80地域の人材を外部講師として招聘した授業を行ったか　【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	７６．７	－７．５	－１．８
81ボランティア等による授業サポート（補助）を	３１．１	－１８．８	＋１．９

行ったか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】			
82博物館や科学館、図書館を利用した授業を行ったか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	３３．９	－１４．３	－０．７
83地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導を行ったか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	６９．３	－６．３	（新規）
86職場見学や職場体験活動を行っているか 【「行っている」の合計】	３８．９	－６．５	－０．８
88学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加しているか 【「よく参加してくれる」「参加してくれる」の合計】	７９．１	－９．６	＋４．５

▼　近隣等の中学校と、教育目標を共有する取組を行ったり、教育課程に関する共通の取組を行ったりした学校の割合は、全国を大きく下回っている。

▼　地域の人材を外部講師として招聘した授業や博物館や科学館、図書館を利用した授業を行った学校の割合は、全国を下回っている。

▼　ボランティア等による授業サポートを行った学校の割合は、全国を大きく下回っている。

▼　博物館や科学館、図書館を利用した授業を行った学校の割合は、全国を大きく下回っている。

▼　地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせる指導を行った学校の割合は、全国を下回っている。

▼　職場見学や職場体験活動を行っている学校の割合は、全国を下回っている。

▼　学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加している学校の割合は、全国を下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね５０％未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

◆　地域、学校、児童の実態を踏まえ、必要に応じて、地域の人材を授業に招聘したり、ボランティア等による授業サポートを取り入れたりするなど、地域人材の積極的な活用に努める。

◆　地域の実態を踏まえ、必要に応じて、社会教育施設等の積極的な活用に努める。

◆　今後も学校支援ボランティア活動を推進し、保護者や地域が連携して学校を支援する体制づくりに努める。

◆　近隣の中学校との連携は、教育活動の実施にとどまらず、児童生徒の学力に関する課題や互いの学校の取組等を共有するなどして、質的な充実をより一層図ることが必要である。

◆　小中連携に当たっては、引き続き、次のようなことを心がける。

質的な充実を図るために

○小・中教職員全体での合同研修会では、授業参観や協議を通して、相互の児童生徒の実態や相互の教育内容、指導方法、指導形態等、現状で行われている教育活動の具体的な取組などを知り、各校の指導のねらい等に対する理解を図る場にする。

○小中連携を推進する会議等では、各学校が自校の教育目標のもとにすすめている

教育活動の中での連携の可能性を探ったり、児童生徒の学力に関する課題を共有したりすることで、自校の教育課程の編成に反映させるようにする。

○研修会や会議等で得た中学校での取組や生徒の現状に関する情報を全教職員で共有し、義務教育９年間を通じて子どもを育てるという意識のもと、小学校卒業時までに児童にどのような力を身に付けさせるかという視点も含めて、教育課程の編成に当たるようにする。